

演習問題集



2026年9月
兵庫県健康財団 がん登録室

目次



◆演習問題A ～登録項目確認編～ P. 3

◆演習問題B ～ 症例登録編 ～ P.17

◆解答・解説A ～登録項目確認編～ P.42

◆解答・解説B ～ 症例登録編 ～ P.52

演習問題A ～登録項目確認編～

●登録対象

☒ 確認問題 6問 やっていきましょう<登録対象>

●来院経路と発見経緯

☒ 確認問題 3問 やっていきましょう<来院経路と発見経緯>

●当該腫瘍初診日と診断日

☒ 確認問題 2問 やっていきましょう
<当該腫瘍初診日と診断日>

登録対象

●登録対象の判断・・・「がん」の診断・治療に関わったかどうか

- ①自施設を「がん」で初診している。
- ②自施設で「がん」を診断している。
- ③自施設で「がん」の治療または経過観察をしている。

①～③のいずれかが該当すれば、「登録対象」です！

登録対象

★やってみましょう＜登録対象＞

	確 認 問 題	回 答
ア	自施設で乳癌と診断し、他施設へ紹介。 他施設で乳癌の手術と化学療法が行われた。	1.登録対象 2.登録対象外
イ	他施設で白血病と診断され、化学療法し寛解となった。 寛解後の化学療法を自施設で行うため、転院となった。	1.登録対象 2.登録対象外
ウ	糖尿病で通院中の患者に、前立腺癌の既往があった。 前立腺癌の治療は、診断された他院で行っている。	1.登録対象 2.登録対象外

登録対象

★やってみましょう＜登録対象＞

	確 認 問 題	回 答
工	がんの既往があり、療養のため自施設へ入院した。その方が自施設で亡くなり、死亡診断書に「がん」の病名がついた。	1.登録対象 2.登録対象外
才	他施設でがんと診断後、看取りの目的で自施設へ紹介された。	1.登録対象 2.登録対象外
力	がんの疑いがあり、他施設で生検した。 自施設には他疾患で入院中に、「がんと確定した」と連絡があった。 自施設では他疾患の治療はしたが、がんの治療はせず、緩和ケアのある施設へ紹介した。	1.登録対象 2.登録対象外

来院経路と発見経緯

●全国がん登録では、「⑮ 発見経緯」を登録します。

●考え方

⑮ 発見経緯 ☐ 1.がん検診・健康診断・人間ドックでの発見例 ☐ 3.他疾患の経過観察中の偶然発見
 ☐ 4.剖検発見 ☐ 8.その他 ☐ 9.不明

来院経路 … そのがんの診断や治療のために、
自施設に来た経路

⑮ 発見経緯…そのがんに関して、

自施設・他施設
問いません

初めて医療機関を受診したきっかけ

混同しやすいので、気をつけましょう！

来院経路と発見経緯

★やってみましょう＜来院経路と発見経緯1＞

下血があり自施設を受診。

下部消化管内視鏡にて直腸に腫瘍を認めたため、生検施行。

高分化腺癌の診断。次回外来予約するも、その後来院なし。

回答を右の枠から選択してください →

⑮ 発見経緯・・・

- 1. がん検診・健康診断・人間ドックでの発見例
- 3. 他疾患の経過観察中の偶然発見
- 4. 剖検発見
- 8. その他
- 9. 不明

来院経路と発見経緯

★やってみましょう＜来院経路と発見経緯2＞

健康診断で肝腫瘍を指摘された。

医療機関あての再検査の依頼状を持参で自施設受診。

CT、超音波、血液検査にて肝細胞癌と診断された。

回答を右の枠から選択してください →

⑮ 発見経緯・・・

- 1. がん検診・健康診断・人間ドックでの発見例
- 3. 他疾患の経過観察中の偶然発見
- 4. 剖検発見
- 8. その他
- 9. 不明

来院経路と発見経緯

★やってみましょう＜来院経路と発見経緯3＞

自施設で、1年前より前立腺肥大の診断で経過観察。

定期フォローアップで行ったPSAが高値のため生検を行い、

前立腺癌と診断された。

回答を右の枠から選択してください →

⑮ 発見経緯・・・

- 1. がん検診・健康診断・人間ドックでの発見例
- 3. 他疾患の経過観察中の偶然発見
- 4. 剖検発見
- 8. その他
- 9. 不明

当該腫瘍初診日と診断日

●全国がん登録では、「⑭ 診断日」を登録します。

●考え方

⑭診断日	☐ 0.西暦	☐ 1.明	☐ 2.大	☐ 3.昭	☐ 4.平	☐ 5.令		年		月		日
------	----------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	----------------------	---	----------------------	---	----------------------	---

診断日を決定するために、次の3項目を判断します。

- ・ 当該腫瘍初診日
- ・ ⑪ 診断施設
- ・ 治療開始前に行われた「最も確かな検査」

当該腫瘍初診日と診断日

- ・ 当該腫瘍初診日とは、
その「がん」の診断や治療のために、患者さまが
自施設を初めて受診した日
- ・ ⑪ 診断施設とは、
その「がん」の初回の治療開始前までに行われた、
診断目的の検査（最も確かな検査）が、

自施設受診後に行われたとき・・・1. 自施設診断
自施設受診前に行われたとき・・・2. 他施設診断
- ・ 治療開始前に行われた「最も確かな検査」とは、
その「がん」を診断する根拠となった、最も詳しい検査

「最も確かな検査」とは

数字が小さい
ほど、最も確
かな検査

1

原発巣の組織診 陽性

白血病等での骨髄を検体とする検査の結果も含める

2

転移巣の組織診 陽性

3

細胞診 陽性

白血病等での末梢血を検体とする検査の結果も含める

4

部位特異的腫瘍マーカー(AFP・HCG・VMA・免疫グロブリン)

5

臨床検査(画像診断も含む)、上記4 以外の腫瘍マーカー

6

臨床診断(1～5を伴わないもの)

9

不明

⑪ 診断施設
⑬ 診断根拠
⑭ 診断日
を決定するときに
考慮する

当該腫瘍初診日と診断日

●⑭ 診断日

診断した施設が「1. 自施設診断」のとき

⑭ 診断日＝自施設診断日

診断した施設が「2. 他施設診断」のとき

⑭ 診断日＝当該腫瘍初診日

診断日は、
自施設の情報のみ
で決定できます！

※生前に存在が疑われていなかった「がん」が死体解剖により初めて診断された場合は、**死亡日**を**自施設診断日**とします。

当該腫瘍初診日と診断日

★やってみましょう＜当該腫瘍初診日と診断日1＞

2025年 2月17日 心窩部痛で、Aクリニックを受診
2025年 2月22日 胃内視鏡を施行。びらん状の病変があり胃癌と診断
2025年 3月 6日 精査と治療目的にて、自施設紹介受診
2025年 3月17日 当院にて、内視鏡下生検施行
2025年 3月24日 生検結果で、胃体部の高分化管状腺癌と診断

【回答用紙】

当該腫瘍初診日 : _____

⑪ 診断施設 : _____

⑭ 診断日 : _____

当該腫瘍初診日と診断日

★やってみましょう＜当該腫瘍初診日と診断日2＞

2025年 2月15日 子宮がん検診で要精査により、B病院受診
同日に細胞診、組織診施行

2025年 2月21日 細胞診、組織診の結果で子宮頸癌と診断

2025年 2月28日 治療目的で自施設紹介受診。同日に細胞診と組織診施行

2025年 3月 7日 組織診の結果、子宮頸癌（高分化型扁平上皮癌）と診断

2025年 3月22日 放射線療法目的で入院

【回答用紙】

当該腫瘍初診日 : _____

⑪ 診断施設 : _____

⑭ 診断日 : _____

演習問題B

～症例登録編～

準備するもの

- 全国がん登録届出マニュアル2026

https://ganjoho.jp/med_pro/cancer_control/can_reg/registration_hospital/rep-manu.html

- 部位別テキスト

主要5部位（胃・大腸・肝・肺・乳腺）

https://ganjoho.jp/med_pro/cancer_control/can_reg/hospital/manual.html

主要5部位以外

https://ctr-info.ncc.go.jp/hcr_info/learn/

- ICD-O-3.1(書籍)

- ICD-O-3.2(ダウンロード版のみ)

https://ctr-info.ncc.go.jp/hcr_info/learn/

演習問題B ～症例登録編～

- 結腸および直腸・・・・・・・・・・・・・・・・P.20
- 甲状腺・・・・・・・・・・・・・・・・P.24
- 皮膚・・・・・・・・・・・・・・・・P.28
- 子宮頸部・・・・・・・・・・・・・・・・P.31
- 膀胱・・・・・・・・・・・・・・・・P.34
- 悪性リンパ腫・・・・・・・・・・・・・・・・P.38

結腸および直腸 53歳 男性

2025/11/02 大腸がん検診で便潜血陽性となり前医受診。

2025/11/10 下部消化管内視鏡検査を施行し、上行結腸など複数個のポリープを認めたため、治療目的に当院紹介。

2025/11/14 当院受診。
前医指摘の大腸ポリープについて、切除することを本人に説明。

2025/12/09 内視鏡的切除術施行。

【病理報告】

①横行結腸弯曲、②盲腸、③上行結腸、④横行結腸、⑤下行結腸、⑥直腸Rb
合計6病変が提出されています。

結腸および直腸 53歳 男性

【病理報告】（続き）

- ・ ①、②、③、⑥ Tubular adenoma です。
- ・ ④ Hyperplastic polyp です。悪性の所見は認められません。
- ・ ⑤ 中分化管状腺癌を認めます。
癌は3mm程です。癌の増殖は粘膜内（M）に留まります。
脈管侵襲は見られません。
切除断端は水平方向、垂直方向ともに陰性です。

腫瘍の種類

回答用紙

⑧側性 ☐ 1.右 ☐ 2.左 ☐ 3.両側 ☐ 7.側性なし ☐ 9.不明

⑨原発部位

大分類

選択してください

詳細分類

選択してください

⑩病理診断

組織型・性状

選択してください

診断情報

⑪診断施設

☐ 1.自施設診断 ☐ 2.他施設診断

⑫治療施設

- ☐ 1.自施設で初回治療をせず、他施設に紹介またはその後の経過不明
- ☐ 2.自施設で初回治療を開始
- ☐ 3.他施設で初回治療を開始後に、自施設に受診して初回治療を継続
- ☐ 4.他施設で初回治療を終了後に、自施設に受診
- ☐ 8.その他

⑬診断根拠

- ☐ 1.原発巣の組織診 ☐ 2.転移巣の組織診 ☐ 3.細胞診
- ☐ 4.部位特異的腫瘍マーカー ☐ 5.臨床検査 ☐ 6.臨床診断 ☐ 9.不明

⑭診断日

☐ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☐ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 年 月 日

⑮発見経緯

- ☐ 1.がん検診・健康診断・人間ドックでの発見例 ☐ 3.他疾患の経過観察中の偶然発見
- ☐ 4.剖検発見 ☐ 8.その他 ☐ 9.不明

進行度

回答用紙

- ⑯進展度・治療前
- ☐ 400.上皮内 ☐ 410.限局 ☐ 420.領域リンパ節転移
- ☐ 430.隣接臓器浸潤 ☐ 440.遠隔転移
- ☐ 777.該当せず ☐ 499.不明

- ⑰進展度・術後病理学的
- ☐ 400.上皮内 ☐ 410.限局 ☐ 420.領域リンパ節転移
- ☐ 430.隣接臓器浸潤 ☐ 440.遠隔転移 ☐ 660.手術なし・術前治療後
- ☐ 777.該当せず ☐ 499.不明

自施設初回治療

観血的治療

- ⑱外科的 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ⑲鏡視下 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ⑳内視鏡的 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ㉑観血的治療の範囲 ☐ 1.腫瘍遺残なし ☐ 4.腫瘍遺残あり ☐ 6.観血的治療なし ☐ 9.不明

その他治療

- ㉒放射線療法 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ㉓化学療法 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ㉔内分泌療法 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ㉕その他治療 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

- ㉖死亡日 ☐ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☐ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 年 月 日

備考

甲状腺 55歳 女性

- 2025/06/06 のどにしこりを感じ心配になり、D病院受診。
- 2025/06/12 頸部超音波検査を施行。甲状腺に35mm径の腫瘤を認めた。
同部で穿刺吸引細胞診施行。
甲状腺周囲リンパ節に腫大は認めない。
細胞診結果（Adenocarcinoma）等から甲状腺癌と診断。
本人の希望により、治療目的に当院紹介。
- 2025/06/27 当院初診。
超音波検査施行。甲状腺中央に35mm*25mm径の腫瘍あり。
- 2025/07/03 CT検査では、他の臓器への転移は認めなかった。
前医での検査の結果も併せ、甲状腺癌の診断。
手術を行うことを本人に説明した。

甲状腺 55歳 女性

2025/07/23 手術目的に入院。

2025/07/24 甲状腺全摘術施行。

2025/08/05 経過良好にて退院。
退院時、ホルモン補充療法としてチラーヂンを処方。

【病理報告＜手術＞】 Poorly differentiated carcinoma

腫瘍は35mm*23mm径の低分化癌です。

甲状腺周囲へのわずかな浸潤が認められます。

断端に癌組織は見られません。

I : 0/3、II : 0/3、右IV : 0/3、左IV : 0/3、右V : 0/3

(リンパ節番号は取扱い規約に準ずる)

腫瘍の種類

回答用紙

⑧側性 ☐ 1.右 ☐ 2.左 ☐ 3.両側 ☐ 7.側性なし ☐ 9.不明

⑨原発部位

大分類

選択してください

詳細分類

選択してください

⑩病理診断

組織型・性状

選択してください

診断情報

⑪診断施設

☐ 1.自施設診断 ☐ 2.他施設診断

⑫治療施設

☐ 1.自施設で初回治療をせず、他施設に紹介またはその後の経過不明
☐ 2.自施設で初回治療を開始
☐ 3.他施設で初回治療を開始後に、自施設に受診して初回治療を継続
☐ 4.他施設で初回治療を終了後に、自施設に受診
☐ 8.その他

⑬診断根拠

☐ 1.原発巣の組織診 ☐ 2.転移巣の組織診 ☐ 3.細胞診
☐ 4.部位特異的腫瘍マーカー ☐ 5.臨床検査 ☐ 6.臨床診断 ☐ 9.不明

⑭診断日

☐ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☐ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 年 月 日

⑮発見経緯

☐ 1.がん検診・健康診断・人間ドックでの発見例 ☐ 3.他疾患の経過観察中の偶然発見
☐ 4.剖検発見 ☐ 8.その他 ☐ 9.不明

進行度

回答用紙

- ⑯進展度・治療前
- ☐ 400.上皮内 ☐ 410.限局 ☐ 420.領域リンパ節転移
- ☐ 430.隣接臓器浸潤 ☐ 440.遠隔転移
- ☐ 777.該当せず ☐ 499.不明

- ⑰進展度・術後病理学的
- ☐ 400.上皮内 ☐ 410.限局 ☐ 420.領域リンパ節転移
- ☐ 430.隣接臓器浸潤 ☐ 440.遠隔転移 ☐ 660.手術なし・術前治療後
- ☐ 777.該当せず ☐ 499.不明

自施設初回治療

観血的治療

- ⑱外科的 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ⑲鏡視下 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ⑳内視鏡的 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ㉑観血的治療の範囲 ☐ 1.腫瘍遺残なし ☐ 4.腫瘍遺残あり ☐ 6.観血的治療なし ☐ 9.不明

その他治療

- ㉒放射線療法 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ㉓化学療法 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ㉔内分泌療法 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ㉕その他治療 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

- ㉖死亡日 ☐ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☐ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 年 月 日

備考

皮膚 63歳 女性

【現病歴】

2025/02/25 右頭頂部に皮疹が出現。急速に増大し腫瘤を形成したため、当院受診。

【経 過】

2025/02/25 当院初診。生検施行。病理結果：Sebaceous carcinoma

2025/03/04 CTによる全身検索施行。
頭部CT：45mm大の潰瘍を伴う隆起性腫瘤を認める。原発巣は骨まで浸潤、左前頭葉に26mm大の結節があり、転移性脳腫瘍と考える。
胸部CT：右側腋窩（1cm径）、リンパ節に転移を認める。
頭皮にできた癌で、脳転移に対しての治療を優先させ、まずガンマナイフを施行。その後化学療法を行うことを、本人と家族に説明した。

2025/03/10 ガンマナイフ目的に入院 2025/03/12 ガンマナイフ施行

2025/03/17 化学療法開始 2025/03/26 経過良好で退院

腫瘍の種類

回答用紙

⑧側性 ☐ 1.右 ☐ 2.左 ☐ 3.両側 ☐ 7.側性なし ☐ 9.不明

⑨原発部位

大分類

選択してください

詳細分類

選択してください

⑩病理診断

組織型・性状

選択してください

診断情報

⑪診断施設

☐ 1.自施設診断 ☐ 2.他施設診断

⑫治療施設

- ☐ 1.自施設で初回治療をせず、他施設に紹介またはその後の経過不明
- ☐ 2.自施設で初回治療を開始
- ☐ 3.他施設で初回治療を開始後に、自施設に受診して初回治療を継続
- ☐ 4.他施設で初回治療を終了後に、自施設に受診
- ☐ 8.その他

⑬診断根拠

- ☐ 1.原発巣の組織診 ☐ 2.転移巣の組織診 ☐ 3.細胞診
- ☐ 4.部位特異的腫瘍マーカー ☐ 5.臨床検査 ☐ 6.臨床診断 ☐ 9.不明

⑭診断日

☐ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☐ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 年 月 日

⑮発見経緯

- ☐ 1.がん検診・健康診断・人間ドックでの発見例 ☐ 3.他疾患の経過観察中の偶然発見
- ☐ 4.剖検発見 ☐ 8.その他 ☐ 9.不明

進行度

回答用紙

- ⑯進展度・治療前
- ☐ 400.上皮内 ☐ 410.限局 ☐ 420.領域リンパ節転移
- ☐ 430.隣接臓器浸潤 ☐ 440.遠隔転移
- ☐ 777.該当せず ☐ 499.不明

- ⑰進展度・術後病理学的
- ☐ 400.上皮内 ☐ 410.限局 ☐ 420.領域リンパ節転移
- ☐ 430.隣接臓器浸潤 ☐ 440.遠隔転移 ☐ 660.手術なし・術前治療後
- ☐ 777.該当せず ☐ 499.不明

自施設初回治療

観血的治療

- ⑱外科的 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ⑲鏡視下 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ⑳内視鏡的 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ㉑観血的治療の範囲 ☐ 1.腫瘍遺残なし ☐ 4.腫瘍遺残あり ☐ 6.観血的治療なし ☐ 9.不明

その他治療

- ㉒放射線療法 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ㉓化学療法 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ㉔内分泌療法 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ㉕その他治療 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

- ㉖死亡日 ☐ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☐ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 年 月 日

備考

子宮頸部 60歳 女性

【現病歴】

2025/03/26 Cクリニックにて、がん検診実施。子宮頸部異形成の細胞を認めたため、Cクリニックからの紹介状を持参し、当院へ受診。

【経 過】

2025/04/07 当院婦人科を初診。膣拡大鏡にて2cmの病変を認め、細胞診施行。超音波検査では異常所見なし。

2025/04/14 細胞診の結果『Squamous cell carcinoma 陽性』

2025/04/23 円錐切除目的にて入院。

2025/04/24 子宮頸部円錐切除術実施。 2025/04/28 経過良好で退院。

2025/05/07 円錐切除の結果、上皮内癌であり、腫瘍もきれいに切りきれているので、今後は外来で経過観察とする旨、本人と家族に説明。

【病理報告】 HSIL/CIN3 腫瘍は2*1cmで上皮内にとどまっている。切除断端 (-)

腫瘍の種類

回答用紙

⑧側性 ☐ 1.右 ☐ 2.左 ☐ 3.両側 ☐ 7.側性なし ☐ 9.不明

⑨原発部位

大分類

選択してください

詳細分類

選択してください

⑩病理診断

組織型・性状

選択してください

診断情報

⑪診断施設

☐ 1.自施設診断 ☐ 2.他施設診断

⑫治療施設

☐ 1.自施設で初回治療をせず、他施設に紹介またはその後の経過不明
☐ 2.自施設で初回治療を開始
☐ 3.他施設で初回治療を開始後に、自施設に受診して初回治療を継続
☐ 4.他施設で初回治療を終了後に、自施設に受診
☐ 8.その他

⑬診断根拠

☐ 1.原発巣の組織診 ☐ 2.転移巣の組織診 ☐ 3.細胞診
☐ 4.部位特異的腫瘍マーカー ☐ 5.臨床検査 ☐ 6.臨床診断 ☐ 9.不明

⑭診断日

☐ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☐ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 年 月 日

⑮発見経緯

☐ 1.がん検診・健康診断・人間ドックでの発見例 ☐ 3.他疾患の経過観察中の偶然発見
☐ 4.剖検発見 ☐ 8.その他 ☐ 9.不明

進行度

回答用紙

- ⑯進展度・治療前
- ☐ 400.上皮内 ☐ 410.限局 ☐ 420.領域リンパ節転移
- ☐ 430.隣接臓器浸潤 ☐ 440.遠隔転移
- ☐ 777.該当せず ☐ 499.不明

- ⑰進展度・術後病理学的
- ☐ 400.上皮内 ☐ 410.限局 ☐ 420.領域リンパ節転移
- ☐ 430.隣接臓器浸潤 ☐ 440.遠隔転移 ☐ 660.手術なし・術前治療後
- ☐ 777.該当せず ☐ 499.不明

自施設初回治療

観血的治療

- ⑱外科的 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ⑲鏡視下 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ⑳内視鏡的 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ㉑観血的治療の範囲 ☐ 1.腫瘍遺残なし ☐ 4.腫瘍遺残あり ☐ 6.観血的治療なし ☐ 9.不明

その他治療

- ㉒放射線療法 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ㉓化学療法 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ㉔内分泌療法 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ㉕その他治療 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

- ㉖死亡日 ☐ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☐ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 年 月 日

備考

膀胱 44歳 男性

【現病歴】

2024/12/05 健診で尿細胞診の結果、疑陽性。

2024/12/20 膀胱癌疑いと診断され、当院紹介。

【経 過】

2025/01/06 当院初診。

2025/01/13 初診時の尿細胞診の結果『urothelial carcinoma, 陽性』

2025/01/20 MRI施行。
所見：腫瘍は膀胱内にとどまっており、腎尿管に明らかな占拠病変は指摘できない。

2025/01/22 膀胱鏡施行。
所見：Papillaryな腫瘍が多数。
Taの膀胱癌の診断で、TUR-BtとBCG膀胱内注入を行う旨本人と家族に説明。

膀胱 44歳 男性

(2021年院内がん登録中級研修 膀胱1 改)

2025/02/03 治療目的に本日入院。

2025/02/05 TUR-Bt、BCG膀胱内注入施行。

2025/02/10 経過良好にて退院

【病理報告】

Non-invasive papillary urothelial carcinoma, low grade, pTa

膀胱側壁、後壁、前壁からTURを施行。

腫瘍は全て非浸潤性のpapillary UC。断端は全て陰性。

腫瘍の種類

回答用紙

⑧側性 ☐ 1.右 ☐ 2.左 ☐ 3.両側 ☐ 7.側性なし ☐ 9.不明

⑨原発部位

大分類

選択してください

詳細分類

選択してください

⑩病理診断

組織型・性状

選択してください

診断情報

⑪診断施設

☐ 1.自施設診断 ☐ 2.他施設診断

⑫治療施設

☐ 1.自施設で初回治療をせず、他施設に紹介またはその後の経過不明
☐ 2.自施設で初回治療を開始
☐ 3.他施設で初回治療を開始後に、自施設に受診して初回治療を継続
☐ 4.他施設で初回治療を終了後に、自施設に受診
☐ 8.その他

⑬診断根拠

☐ 1.原発巣の組織診 ☐ 2.転移巣の組織診 ☐ 3.細胞診
☐ 4.部位特異的腫瘍マーカー ☐ 5.臨床検査 ☐ 6.臨床診断 ☐ 9.不明

⑭診断日

☐ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☐ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 年 月 日

⑮発見経緯

☐ 1.がん検診・健康診断・人間ドックでの発見例 ☐ 3.他疾患の経過観察中の偶然発見
☐ 4.剖検発見 ☐ 8.その他 ☐ 9.不明

進行度

回答用紙

- ⑯進展度・治療前
- ☐ 400.上皮内 ☐ 410.限局 ☐ 420.領域リンパ節転移
- ☐ 430.隣接臓器浸潤 ☐ 440.遠隔転移
- ☐ 777.該当せず ☐ 499.不明

- ⑰進展度・術後病理学的
- ☐ 400.上皮内 ☐ 410.限局 ☐ 420.領域リンパ節転移
- ☐ 430.隣接臓器浸潤 ☐ 440.遠隔転移 ☐ 660.手術なし・術前治療後
- ☐ 777.該当せず ☐ 499.不明

自施設初回治療

観血的治療

- ⑱外科的 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ⑲鏡視下 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ⑳内視鏡的 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ㉑観血的治療の範囲 ☐ 1.腫瘍遺残なし ☐ 4.腫瘍遺残あり ☐ 6.観血的治療なし ☐ 9.不明

その他治療

- ㉒放射線療法 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ㉓化学療法 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ㉔内分泌療法 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ㉕その他治療 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

- ㉖死亡日 ☐ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☐ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 年 月 日

備考

悪性リンパ腫 26歳 女性

【現病歴】

2024/12/26 左頸部腫脹を自覚し、増大してきたため近医を受診。
超音波検査で左頸部のリンパ節腫脹を認めたことから、
リンパ腫を疑われ、当院血液内科へ紹介。

【経 過】

2025/01/08 当院初診。
発熱、体重減少などの症状はなく、左頸部に拇指頭大、右頸部に
小指頭大のリンパ節腫脹を認めるのみで、腋窩、鼠径リンパ節に
腫大は認めなかった。

2025/01/14 頸部超音波検査施行。
左頸部3cm大、右頸部1cm大の腫大リンパ節
を認め、超音波ガイド下で頸部リンパ節生検施行。

2025/01/20 全身Gaシンチグラム施行。
『両腋窩、両肺野にHotspotを認め、リンパ腫の侵襲と考えられます』

悪性リンパ腫 26歳 女性

2025/01/22 検査の結果、頸部リンパ節原発のホジキンリンパ腫と診断、外来で化学療法を行うことを本人、家族に説明。

2025/01/28 外来で化学療法を開始。

【病理報告(頸部リンパ節生検)】

Classic Hodgkin lymphoma , nodular sclerosis

腫瘍の種類

回答用紙

⑧側性 ☐ 1.右 ☐ 2.左 ☐ 3.両側 ☐ 7.側性なし ☐ 9.不明

⑨原発部位

大分類

選択してください

詳細分類

選択してください

⑩病理診断

組織型・性状

選択してください

診断情報

⑪診断施設

☐ 1.自施設診断 ☐ 2.他施設診断

⑫治療施設

☐ 1.自施設で初回治療をせず、他施設に紹介またはその後の経過不明
☐ 2.自施設で初回治療を開始
☐ 3.他施設で初回治療を開始後に、自施設に受診して初回治療を継続
☐ 4.他施設で初回治療を終了後に、自施設に受診
☐ 8.その他

⑬診断根拠

☐ 1.原発巣の組織診 ☐ 2.転移巣の組織診 ☐ 3.細胞診
☐ 4.部位特異的腫瘍マーカー ☐ 5.臨床検査 ☐ 6.臨床診断 ☐ 9.不明

⑭診断日

☐ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☐ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 年 月 日

⑮発見経緯

☐ 1.がん検診・健康診断・人間ドックでの発見例 ☐ 3.他疾患の経過観察中の偶然発見
☐ 4.剖検発見 ☐ 8.その他 ☐ 9.不明

進行度

回答用紙

- ⑯進展度・治療前
- ☐ 400.上皮内 ☐ 410.限局 ☐ 420.領域リンパ節転移
- ☐ 430.隣接臓器浸潤 ☐ 440.遠隔転移
- ☐ 777.該当せず ☐ 499.不明

- ⑰進展度・術後病理学的
- ☐ 400.上皮内 ☐ 410.限局 ☐ 420.領域リンパ節転移
- ☐ 430.隣接臓器浸潤 ☐ 440.遠隔転移 ☐ 660.手術なし・術前治療後
- ☐ 777.該当せず ☐ 499.不明

自施設初回治療

観血的治療

- ⑱外科的 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ⑲鏡視下 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ⑳内視鏡的 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ㉑観血的治療の範囲 ☐ 1.腫瘍遺残なし ☐ 4.腫瘍遺残あり ☐ 6.観血的治療なし ☐ 9.不明

その他治療

- ㉒放射線療法 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ㉓化学療法 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ㉔内分泌療法 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明
- ㉕その他治療 ☐ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

- ㉖死亡日 ☐ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☐ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 年 月 日

備考